



2017年
10月11日
No.A17-06

中東調査会は個人及び法人会員の賛助会費により運営されている非営利の公益財団法人です

【会員限定】

中東調査会月刊活動誌 (2017年9月)

1. 中東調査会主催の行事

(1) トップミーティング

・9月20日、齋木昭隆・中東調査会理事長、前外務事務次官「安倍改造内閣の外交課題」
(於：ホテルオークラ)



<要旨>

冒頭、直近の国内政治過程につき概観した上で、アジア域内および域外において日本が抱える地政学的な課題とリスクを、短期・長期的な視点から分析した。特に、北朝鮮の挑発に対する対応振り、中国および韓国との関係のあり方、ロシアの国内情勢や領土問題を中心とする日ロ関係、トランプ政権の政策状況について、質疑応答も含め解説した。

※講演はオフレコにて行われました

(2) 講演会

・9月27日、ウジ・ラビ教授（テルアビブ大学教授兼同大学ダヤンセンター所長）
「Iranian influence to the Arab States」
(於：フォーリン・プレスセンター)



<要旨>

近年、中東ではアラブ諸国の勢力が衰え、非アラブのトルコ、イランの力が増大している。イランは、1979年の革命以降、長期的な視点に立ち、緻密な計画の下で、中東域内における影響力を強めることを虎視眈々と狙ってきた。そして今や、イランからイラク、シリア、レバノンへと続くシーア派ルートが確立されようとしている。1979年の革命以降、イランはレバノンのヒズブッラーを抵抗組織として支援し、このルートを延ばした。そして現在、イラクとシ

リアで革命防衛隊を展開させている。こうしたイランの動きを促進したのは、シーア派・スンナ派という構図の政治化であった。その意味で考えると、イランの1979年革命は、アラブの春への引き金だったと言える。

イランを分析する場合、国際的な基準などではなく、ペルシャの言語や歴史を理解した上で、彼ら独自の思考様式を知る必要がある。とはいえ、あまり偏った見方はすべきでない。重要なのは文化と事象を分けることだ。両者を冷静に分けて分析して初めて、相手の思考に近づくことができる。

イランの今後の行動や将来の核保有について楽観的な見方をすべきではない。一方、内政については、2009年に若者によってペルシャの春と呼ばれた抗議活動が発生したが、若者は保守派に取り込まれてしまった。

(質疑応答で、中東地域をみる視点、その他に関する質問があった。)

(3)その他

・9月5日、サウジアラビアの「King Faisal Center」研究員との意見交換を中東調査会にて行った。イエメン情勢や中国の中東進出、カタール情勢について協議した。中東調査会からは鏡副会長、中島主席研究員、金子研究員、村上研究員が参加した。

・9月6日、カーネギー財団研究員との意見交換会を中東調査会にて行った。中東調査会からは鏡副会長、中島主席研究員、金子研究員、村上研究員が参加した。シリア情勢、日本の中東政策、米国のイラン政策、中東和平、米国のシリア政策について協議した。

2. 中東調査会の活動

(1) 中東トピックスの発行 (会員限定)

- ・2017年9月号 (2017年10月1日)
- 1. イラク：クルディスタンの住民投票の余波
- 2. サウジアラビア：女性への各種制約の撤廃
- 3. パレスチナ：ファタハとハマースの国民対話
- 4. リビア：イタリアによる不法移民対策支援とその影響
- 5. トルコ：エルドアン大統領とトランプ米大統領との首脳会談

※内容はホームページをご参照ください。

(2) 中東かわら版の発行

- ・No.91「カタール：クウェイトによる断交危機の仲介と米国の立場の変化」(村上研究員、9月8日)
- ・No.92「「イスラーム国」の生態：「イスラーム国」の妻子たち」(イスラーム過激派モニター班、9月12日)
- ・No.93「イスラーム過激派：ロヒンギャ問題への反応」(イスラーム過激派モニター班、9月13日)
- ・No.94「チュニジア：内閣改造(シャーヒド第3次内閣)」(金谷研究員、9月20日)
- ・No.95「パレスチナ：ファタハとハマースの政治和解」(中島主席研究員、9月20日)
- ・No.96「チュニジア：行政和解法の成立とこれに対する反発」(金谷研究員、9月22日)
- ・No.97「サウジアラビア：女性による自動車の運転を解禁」(村上研究員、9月27日)
- ・No.98「イラク：クルド地区での住民投票」(高岡上席研究員、9月27日)
- ・No.99「リビア：UNSMILによる新たな和平案」(金谷研究員、9月29日)

※内容はホームページをご参照ください

3. その他

(1) 要人往来

- ・9月9日、河野太郎外務大臣は、カタルを訪問した。
- ・9月10日、河野太郎外務大臣は、ヨルダンを訪問した。
- ・9月10日、河野太郎外務大臣は、クウェイトを訪問した。
- ・9月11日、河野太郎外務大臣は、サウジアラビアを訪問し、同日、サルマーン国王、ムハンマド・サルマーン皇太子兼国防大臣等を表敬した。
- ・9月12日、河野太郎外務大臣は、エジプトを訪問し、同日、シーシー大統領を表敬した。また、同日、同国にてリヤード・マーリキー・パレスチナ外務・移民庁長官、アブドゥルカーディル・ミサーヒル・アルジェリア外務大臣、ムハンマド・ターヘル・リビア国民統一政府外務相、アブドルマリク・ミフラーフィ・イエメン外務大臣と会談した。

(2) 外務省人事

- ・9月5日
チュニジア大使 塩川実喜夫（内閣官房内閣衛星情報センター次長）